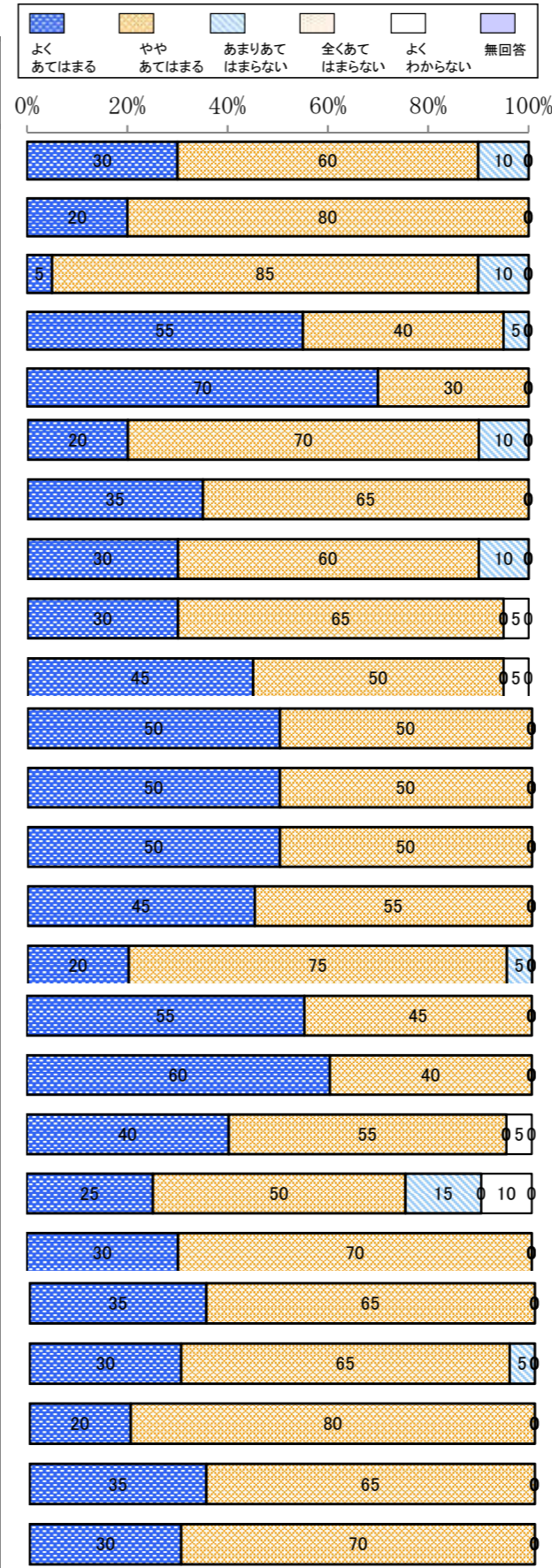


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
			A	B	C	D	よく分らない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	52	36	10	1	1	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	68	24	5	1	1	0
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	51	38	9	0	1	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	40	38	15	3	4	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	64	27	6	2	1	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	59	32	7	1	2	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	63	28	5	1	2	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	54	27	14	3	2	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	51	37	10	0	1	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	50	32	14	2	1	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切に、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	64	31	3	0	1	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	47	39	10	1	3	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	44	29	16	7	4	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	65	25	6	2	2	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	59	28	9	1	3	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	49	30	8	3	11	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	53	33	9	1	5	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	68	24	5	1	3	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	27	21	30	10	12	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	56	31	6	3	5	0
各学校の特色ある教育	21	確かな学力の定着	放課後の学習や家庭学習の取り組みを通して、児童の確かな学力の定着のための指導を行っている。	41	32	19	5	3	0
	22	規範意識の向上	周りに流されず、自ら判断して望ましい言動ができるように、継続した指導を行っている。	40	42	13	1	4	0
	23	集団活動の充実	自己の役割を自覚し、仲間と協力できるよう集団活動の充実を図っている。	49	34	10	3	5	0
	24	安全意識の向上	危険を察知し、回避し、児童が安全な生活を送ることができるように指導を行っている。	62	29	4	1	3	0
	25	健康・体力の向上	食育や体育の指導を通して、児童の心と体の健康、体力の向上のための指導を行っている。	60	30	7	2	1	0



無効票を除く(%)

無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

学校だよりや学校ホームページだけでなく、グーグルクラスルームを活用し広報してきたこともあり、今年度も肯定的回答が8割を超え、教育目標への理解が更に進んだといえる。

肯定的回答が9割を超え、特に児童の回答が経年で向上していることから、楽しく学校生活を送っていると評価できる。

肯定的回答が8割を超え、また経年でみても改善傾向である。しかしながら教職員によるA評価が5%に留まり、課題として捉えることもできる。継続して取り組んでいく。

改善傾向ではあるが、昨年度と同様に児童と教職員間の肯定的回答の開きが16%ある。昨年度御指摘頂いたように、児童へのアプローチについて、更なる改善が必要であると考える。

肯定的回答が8割を超え、経年でも改善傾向にある。新型コロナウイルス感染症への対応が変わろうとしている今、防災・安全教育と共に、新たな対策を講じる時と考える。

肯定的回答が9割程度あり、特に児童の肯定的回答が毎年4%程度ずつ改善がみられることから、分かりやすい授業への取組が、成果として現れているのではないかと考える。

児童と教職員の肯定的回答が9割であるのに対し、保護者は8割に届いていない。取組内容の発信を進めると共に、引き続き個々の実態を把握し、指導に生かしていく。

肯定的回答が8割を超えているが、経年で見ると、児童の肯定的回答が4%ずつ下降しており、児童自身は課題と捉えているのではないだろうか。家庭学習等の在り方を見直す必要がある。

肯定的回答が8割5分程あり、ICTの活用が日常化してきたと考える。昨年度、御指摘頂いた通り、更なる質的向上を目指し、引き続き取り組んでいく。

肯定的回答が8割を超え、昨年度下降したポイントも改善が図られた。これまでの取組に加え、本の感想リーナーなどの新たに取り組んだことが功を奏していると考えられる。

児童と教職員の評価が向上しているのに対し、保護者の評価は3年連続で下降している。原因の精査を進め、改善を図ると共に、取組について積極的に発信していく。

児童の評価が3年連続で向上しており、取り組みの成果が表れている。道徳教育推進教師を軸に据えて、常に改善を図り、児童の道徳性を高めていく。

特別支援コーディネーターを中心にSCと連携を図り充実を図っている。しかし、教職員と児童・保護者の肯定的回答に2割程の乖離が見られることから、原因を探り、改善を図る。

本調査からは良好な評価がされているが、日々の教育活動の中では、友達関係を起因とする事案が出ている。引き続き、丁寧な対応と育成を両面からアプローチしていく。

委員会活動やきょうだい班活動など、改善を図り、取り組んでいるところである。評価も改善傾向である。

情報発信について肯定的回答は8割を超え、良好といえるが、教職員と児童の評価には乖離もみられる。児童が理解しやすいように発信していく必要があるのではないかと考える。

設問13と同様の傾向である。教職員が評価している程、児童・保護者の理解がみられていない。引き続き、分かりやすい取組と発信が必要であると考える。

児童・教職員の評価に対し、保護者の評価に差がみられる。新型コロナウイルス感染症対策もあり、制限のあるなかで参加を促していることも影響していると考えられる。

設問18と同様に、新型コロナウイルス感染症対策などもあり、地域との連携が難しかった。今後、制限緩和が想定されることから、状況に応じた連携を図っていく。

児童と教職員の評価が改善される中、保護者の評価が微減と共にポイントも低い。保護者の思いに理解を深めると同時に、発信力も高めていく必要がある。

児童と保護者の肯定的回答が微減していることに加え、児童の評価自体も7割程度に留まっている。学力格差解消推進校であることから、引き続き、確かな学力への指導を高めていく。

肯定的回答が8割を超え、経年でも改善傾向にあるが、日々の実態と照らし合わせると、課題も多い。数字に囚われることなく、焦点を明確にし、継続した取り組みが必要である。

昨年度に引き続き、特別活動の改善に取り組んでいる。その結果が、評価としても改善に繋がっている。更に異学年による取組の充実を図っていく。

本項目も改善傾向にある。特に保護者の評価の上昇は顕著である。引き続き、保護者との信頼関係構築に努め、安全意識の向上を図っていく。

本校目も評価としては改善傾向である。しかしスポーツテスト等の結果からは、依然として課題も多い。体育の時間を基盤に、休み時間の外遊び推奨を進め、向上を図っていく。